

青年就農給付金／農業次世代人材投資資金を活用した先輩農業者のすがた(研修を受けて就農されたみなさん)

～東北・関東地方～

【準備型】

採択年度 営農類型	米麦等	野菜等	果樹
令和2年(2020年)		兵庫県 塚本 慶彦 さん	和歌山県 中山 将誓 さん
令和元年(2019年)		沖縄県 平良 卓也 さん	福島県 宮崎 遥 さん
平成30年(2018年)		千葉県 後藤 貴一 さん 神奈川県 本城 一貴 さん 滋賀県 佐生 和輝 さん	
平成29年(2017年)		宮城県 柳渕 泰孝 さん 栃木県 児矢野 翔吾 さん 静岡県 水見 翔人 さん 新潟県 鈴木 美香 さん 岐阜県 匿名希望 さん	
平成28年(2016年)		三重県 平松 香歩里 さん 佐賀県 中島 康太 さん 大分県 匿名希望 さん	岡山県 岡本 和正 さん
平成27年(2015年)		岩手県 吉田 祐一郎 さん 高知県 都築 廣和 さん	広島県 西森 恒平 さん
平成26年(2014年)	※秋田県 久保井 優司 さん	※秋田県 久保井 優司 さん	青森県 相馬 亘 さん 愛媛県 神野 哲彰・さやか さん
平成24年(2012年)		大阪府 川崎 佑子 さん	

※ 複数の類型について研修

青森県

相馬 亘さん(46歳)

研修先：先進農家

研修内容：果樹(栽培技術、販売方法)

新規就農を志した経緯・背景

前職の青果市場での仕事において、りんご生産者と情報交換しているうちに農業に興味がわき、先進農家で栽培技術や販売方法等について研修し、就農した。

研修中に工夫したポイント

- ・研修開始時から、樹園地の取得に向けて、情報収集して就農準備を進めた。
- ・病害虫は、農薬の種類、散布方法等、細かく聞き取りし、写真で記録しながら覚えた。
- ・りんご樹の個性に応じた剪定が難しく、研修先農家の技術をひたすら見て身につけた。
- ・積極的に地域での交流を行い、地元農家とのつながりを構築した。

資金の活用例

研修中の生活費



今後の取組

省力化を図るため、反射シートを敷かない、葉を取らなくても色が付きやすい品種に改植していきたい。

人員を確保するためには、通年雇用が必要であることから、りんごの農閑期にも作業ができる体制を整備していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修(H26)

- ・りんごの栽培管理全般(剪定、着色管理、収穫、選果等)を研修した。
- ・準備型の資金は、生活費に充てた。

就農(1年目)

- ・りんご0.9ha
- ・就農1年目に経営開始型に移行した。
- ・役場のサポートを受け、青年等就農計画を作成した。
- ・農業委員会から農地流動化情報を確認し、農地を確保した。

現在(就農7年目)

- ・りんご2.4ha
- ・農業所得は順調に増え、1年目の約3倍を確保した。
- ・9割は仲卸業者との相対取引、残りは、農協及び青果市場に販売した。

今後の目標(就農10年目)

- ・りんご2.4ha
- ・色が付きやすい品種を増やし、省力化する。
- ・人員を確保するため、通年雇用できる体制を整備する。

吉田 祐一郎 さん（35歳）

研修先：先進農家

研修内容：野菜（栽培実習、農業機械操作）

新規就農を志した経緯・背景

関東で就職していたが、28歳の時に帰郷。当初は就農を考えていなかったが、近所に住むトマトの先進農家に誘われたことを契機に、農業という仕事に興味を持つようになった。

研修中に工夫したポイント

- ・研修終了の半年前から、就農計画作成や就農準備を並行して進め、円滑に就農できた。
- ・水耕栽培等の最新のシステムを導入している研修先で研修することで、農業の先進技術に早くから触れることができた。
- ・地域の若手勉強会や指導会等に積極的に参加するなど地域との交流を行い、地元農家とのつながりを構築。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



今後の取組

更なる単収向上に向けて、自分のやり方を模索し、経験を積み重ねながら、質にこだわったトマトを作りたい。

就農に向けた推移と今後

研修（H28～29）

農作業全般
施設トマトの栽培管理

- ・平成28年に研修開始
- ・資金を活用し、生計を維持

就農（H29）

施設トマト 7a

- ・近隣の先進農家の指導を受けながら栽培管理。
- ・圃場ごとの条件の違いに苦労。

現在（就農6年目）

施設トマト 16a

- ・若手勉強会に参画し、積極的に技術研鑽。
- ・JAトマト専門部の仲間と共に生育環境のモニタリングに取り組む。

今後の目標（就農10年後）

施設トマト 16a～20a

- ・環境モニタリング等のスマート農業技術を活用し、単収向上や高品質なトマトの生産を実現したい。

柳 渕 泰孝 さん (24歳)

研修先：農業大学校

研修内容：施設野菜（座学、栽培実習等）

新規就農を志した経緯・背景

実家が専業農家で水稻（278a）といちご（50a）を栽培してきたが、両親の年齢も考え、高品質いちごの生産拡大により経営を安定させたいと思い親元就農を志し、いちごの生理、生態及び病害虫の防除等や農業経営全般を研修した。

研修中に工夫したポイント

- ・宮城県農業大学校で農業の土台となる知識を学んだのち、自宅へ就農、自宅の栽培だけでなく地域周辺や県南のイチゴ農家を視察し自宅の栽培に取り入れた。
- ・普及センターや試験場の巡回指導を活用し、栽培について疑問に思ったことや病害虫に効果的な薬剤など積極的に質問し実践した。
- ・普及センター主催で開催されている資金繰りや農薬についての勉強会に参加。

資金の活用例

- ・生活費
- ・就農準備費



今後の取組

- ・収量・品質の向上と経費を両立させる。
- ・病害虫防除技術を習得し、品質を向上させる。
- ・破損施設を修復し、稼働率を向上させる。

就農に向けた推移と今後

研修（H29～31）

- 宮城県農業大学校へ入学
- 農業技術、経営全般を取得
- ・農業の土台となる知識や今後、必要となる免許を取得
- ・資金は研修期間中の生活費に充当
- ・一部は、就農準備のために貯蓄



就農（H31～）

- 雇用形式で親元就農（いちご栽培全般）
- ・資金を活用し「環境モニター」を導入
- ・県の新品種である「にこにこベリー」を導入
- ・JAイチゴ部会との情報共有による技術向上



現在（就農3年目）

- 収穫、選別、育苗担当
- ・「にこにこベリー」部門の栽培を担当
- ・栽培技術、出荷先の規格・選別技術を習得
- ・5～6月の規格外は冷凍いちごとして道の駅で販売



今後の目標（就農5年後）

- いちご部門の経営継承
- ・収量向上だけでなくコスト面も考え両親（水稻部門）と協力しながら収益を向上
- ・病害虫防除技術の習得による品質向上
- ・カーテンや欠損施設の修復による稼働率向上

秋田県

久保井 優司 さん (46歳)

研修先：先進農家

研修内容：野菜＋水稻（実地研修、機械操作、座学）

新規就農を志した経緯・背景

平成24年度に東京脱出を考えるようになり、新・農業人フェア・移住フェア等に参加したほか、相模原市で田んぼを借りて米栽培を試みた上で、無農薬の米栽培で新規就農する決意を固め、妻の了解を得る。

その後、妻の実家の能代市など関係機関へ相談の上、ネギ農家になる決心をした。決意を固め、平成26年能代市に移住。

資金の活用例

- ・経営開始に必要な設備・農機具の導入
- ・運転資金



研修中に工夫したポイント

- ・非農家からの就農のため園芸メガ団地に参加する先進農家での研修
- ・多額の費用を要する農業機械・作業施設の準備に各種制度の活用
- ・積極的に地域と交流を行い、地元農家とのつながりを構築し、土地の確保に努める

今後の取組

- ・地域の農地を集約し、経営規模の拡大
- ・規模拡大に伴う人員、人材の確保
- ・通年的な売り上げをあげる体制整備

就農に向けた推移と今後

研修（H26～27）

- ・農事組合法人グリーンファーム常盤で研修
- ・ネギの栽培等全般、冬季の作物栽培（キャベツ等）、水稻・大豆作業全般
- ・病虫害防除等の習得
- ・農業用機械操作の習得等

就農準備（H26～27）

- ・農地の取得
- ・農業用機械の取得
- ・営農計画の策定

令和2年度現在
（就農5年目）

- ・ネギ、キャベツの規模拡大
- ・キャベツ、ネギのネットワークタイプ園芸拠点整備計画の実現



今後の目標（就農8年後）

- ・地域の若手生産者と一緒に農産物販売額1億円
- ・規模拡大により、利益の残る農業経営

宮崎 遥さん (36歳)

研修先：農業総合センター果樹研究所
研修内容：果樹（栽培実習、病虫害実習 等）

新規就農を志した経緯・背景

親戚の農業を手伝った時に、『農業って儲かるのか』と疑問に思い、情報収集を開始。仕事が結果に直結する点、自分が思ったことを突き詰めていける点に魅力を感じ、果樹研究所で研修を開始して就農を志す。

研修中に工夫したポイント

- ・非農家出身、ほぼ経験なしからの就農のため、研修機関以外の先進農家でも経験を積み技術習得に努めた。
- ・就農予定地域の地域コミュニティに入会し、新規就農に当たっての成園地の情報収集を地域一体となって行った。
- ・剪定技術習得のために、就農予定農地の成園でも実技研修を行った。
- ・研修中に、更地だった農地の紹介を受けて、地主の許可を得た上で新品种果樹を主体に新植準備等を進めた。

資金の活用例

- ・独立・自営就農に向けた資材購入等の費用
- ・研修期間中の生活費



今後の取組

地域連携を図り、まとまった収量を確保して海外販売等の販路拡大にチャレンジしたい。

GAPの取得へ意欲的に取り組んでいく。

就農に向けた推移と今後

研修 (H31.4～R2.3)

栽培実習、機械操作、
県内農家視察等

- ・準備型を受給
- ・研修中に就農予定農地への新植準備を進める

就農準備 (H31.4～R2.11)

研修と並行して独立に
向けた営農環境の整備

- ・研修終了後は、地元の果樹農家へ雇用就農
- ・雇用先農家を通じて、成園地の確保を進める

現在 (就農3年目)

モモ116a、リンゴ30a
を夫婦2人で経営

- ・経営開始型を受給
- ・農地中間管理事業を活用して規模拡大に取り組む
- ・ほ場近くに作業小屋を購入

今後の目標 (就農5年後)

法人化し、従業員を雇用することにより規模拡大

- ・地域連携で収量を確保。海外販売等を展開
- ・GAPを取得し、安全性や品質の確保、持続的な農業生産に取り組む。
- ・地域コミュニティの活性化と新規就農希望者への支援

栃木県

SUNNY SIDE FARM

児矢野 翔吾 さん (29歳)

研修先：先進農家

研修内容：施設野菜（トマト栽培全般）

新規就農を志した経緯・背景

非農家出身だが野菜販売から農業に興味を持ち、研修中に紹介された農家からハウス設備一式を譲り受けて、養液トマト・ミニトマトの養液栽培を開始した。

研修中に工夫したポイント

- ・人脈を活かしての情報収集に努めた。
リタイアするトマト農家の情報を農業資材業者からの紹介を受けて、1年間研修して設備活用や環境条件を学び、中古ハウスや設備等を全部譲り受けて就農した。
- ・中古ハウス修繕用の県補助事業の情報をリサーチ、就農後に活用した。
- ・生産やパート管理等を中心に担当した、販路開拓は営業担当の友人と協力して業務分担を検討した。

資金の活用例

参考本の購入、先進農家の視察、生活費など



今後の取組

さらなる規模拡大を図り、雇用を増やして働きやすい環境を整備する。
ミニトマトを中心に個人ブランド化で販売先の拡大を行う。
自身の経験から、就農アドバイスや研修生受入れ等に協力し、未来の新規参入者を応援したい。

就農に向けた推移と今後

研修1 (H29～30)

野木町トマト農家で
トマト栽培の研修開始

- ・農業次世代人材投資事業
準備型を受給開始

研修2 (H30～R1)

真岡市トマト農家で研修
後、ハウス50aを譲り受
け養液トマト栽培の準備

- ・真岡市に移住
- ・農地、ハウス等入手

現在 (就農3年目)

ハウス10a増設、
費用は認定農業者の
スーパーL資金を活用
した

- ・令和3年度栃木県農業大
賞「芽吹き力賞」部門の
栃木県知事賞を受賞

今後の目標 (就農10年後)

規模拡大で目標100a
法人化

- ・自社ブランド力強化
- ・自身の経験を活かし
た新規就農者の支援

千葉県

農業次世代人材投資資金(準備型)

後藤 貴一 さん (35歳)

研修先：農業大学校

研修内容：野菜(座学、栽培実習 等)

新規就農を志した経緯・背景

他の会社に法務担当として勤務していたが、自由度が高く、自分の想いをそのまま形にできる農業に従事したいと考えた。親の水稻の経営に加えて、新しいことにチャレンジしたいと思い、農業大学校でネギの研修を1年間行った。

研修中に工夫したポイント

- ・就農後にネギ栽培を行うために、農業大学校の研修以外に、自主的に問い合わせ、県内外の複数のネギ農家に研修を受けに行った。現在も、この時の人脈が農業技術や販路の共有などに活かしている。
- ・親の経営を法人化するために、農業大学校の座学で講師だった千葉県農業会議の協力を得た。前職の知識・経験も活用して法人化した。
- ・就農後の規模拡大を見据えて農地の情報を集めた。
- ・町会活動への参加等により、非農家地主からの耕作依頼が定期的に来るようになった。

資金の活用例

- ・研修期間中の生活費
- ・法人設立費用



今後の取組

- ・目まぐるしく変わる情勢に対応できる柔軟な経営をする。
- ・リスク分散のために、スーパーや直売所の販売を拡大する。
- ・農福連携では、ハンデのある人も一緒に楽しく野菜を作っている。今後、幅を広げ強化したい。
- ・規模拡大に拘らず、適正規模での経営を検討する。

就農に向けた推移と今後

研修(H30)

千葉県立農業大学校にて研修。座学、栽培実習、農業機械、農家研修等

- ・平成30年に研修開始
- ・ネギの技術習得のため、大学校の研修とは別に県内外のネギ農家へ自主的に研修を受けた。

就農準備(H30)

研修中に親の経営の法人化。経営継承及び新規部門のネギ栽培の準備

- ・千葉県農業会議の協力を受けて法人化
- ・就農と同時に「株式会社とねぎファーム」の代表取締役就任。

現在(就農4年目)

ネギ+水稻の経営

- ・ネギ+水稻で607a
- ・周辺から耕作依頼があり、規模拡大(290a→607a)。
- ・耕作放棄地を開墾、耕作。
- ・農福連携でネギの袋詰め等に5~6名の受入。
- ・研修生の受入も実施。

今後の目標(就農6年後)

販路の拡大と農福連携の強化

- ・スーパー等の販売を拡大したい。
- ・農福連携は今後強化したい。
- ・ネギの栽培技術を向上させたい。
- ・緑肥の活用を進めたい。
- ・想定以上に農地が集まったので、まずは現在の規模での経営安定を目指す。

神奈川県

本城 一貴 さん (46歳)

研修先：かながわ農業アカデミー

研修内容：野菜(座学、栽培実習 等)

新規就農を志した経緯・背景

体力や判断力がピークにある40代で、自らの力量を試す挑戦がしたいと考えていました。そのフィールドは農業が最適と考え、新規就農しました。

研修中に工夫したポイント

- ・就農計画の作成
天候や技術不足により売上は不安定です。しかし、播種作業だけは確実に実行する計画を作成しました。
- ・農地の確保
農地を確保するためには農地を適正に管理する能力を証明すべきと考え、かながわ農業アカデミーで実技と資格の取得に励みました。
- ・地元農家での実習
農業者として、資質の有無を見極めて頂く目的で実習に取り組みました。

資金の活用例

乗用トラクター、
歩行型管理機、
一輪管理機、移植機、
パイプハウス、資材等
購入経費



今後の取組

- ・冬季の売上と労働時間の短縮を目指します。そのために、保温資材を活用した作型と果菜類を導入してまいります。
- ・JAとの連携を強化し、単価を向上してまいります。そのために、品質と定量出荷に努めてまいります。
- ・地域との連携強化を目指します。そのために、河川の草刈作業や地域行事へ積極的に参加してまいります。

就農に向けた推移と今後

研修(H30.4~H31.3)

農作業全般
野菜の栽培、収穫、調整

- ・平成30年4月研修開始
- ・大型特殊免許取得

就農準備(H30.4~H31.3)

農地を選定(19a)

- ・農地確保のため参入希望の市を訪問。
- ・青年等就農計画の作成、認定。

現在(就農1~4年目)

露地野菜(71a)

- ・経営開始型に移行し、農業所得は経営開始3年目で目標所得を達成。
- ・就農4年目にJA春キャベツ部会に加入。

今後の目標(就農5年後)

露地野菜(80a)

- ・保温資材活用の作型導入
- ・果菜類(ナス等)の導入
- ・JA経由でスイートコーン出荷の強化
- ・地域行事への参加

静岡県

農業次世代人材投資資金（準備型）

水見 翔人 さん（35歳）

研修先：先進農家
研修内容：野菜（イチゴ栽培技術）

新規就農を志した経緯・背景

前職はデスクワーク中心であったが、外で体を使い、周りの人と協力しながら作物を育てていくライフスタイルにあこがれ、静岡県のがんばる新農業人支援事業に応募した。現地を見学して、イチゴの高設栽培に魅力を感じ、研修では栽培技術を習得した。

研修中に工夫したポイント

- 時間があるときに図書館へ行き、植物に関する本やイチゴの栽培に関する本を読み勉強した。
- 選果などの各作業にかかる時間を測定し、仮に自分1人でやった場合の作業時間を分析し、独立就農した際の作業の流れをシミュレーションしていた。
- 研修先は養液の濃度がほ場ごとに違ったため、養液の濃度と量の違いで苗の生育がどのように変わるか定点観測を行った。
- 研修中から就農地を決め、ハウスを建設しはじめたため、円滑に就農できた。

資金の活用例

生活資金



今後の取組

地域の課題であるアザミウマの防除について、天敵の導入や紫色光照射の技術を導入し、防除体系を確立していきたい。

就農に向けた推移と今後

研修（H30～H31）

イチゴの栽培技術全般
苗作り、管理作業、収穫、出荷作業

- 平成30年に研修開始
- イチゴの栽培技術を習得
- 資金で生計を維持

就農準備（H30～H31）

農地の利用権設定
（60a）、施設の建設

- 研修先農家にも協力してもらい、農地中間管理事業で利用権設定
- 県単事業の資金を活用して施設を建設



現在（就農4年目）

イチゴの作付け（20a）
イチゴ栽培全般

- 経営主としてイチゴを栽培し、生食用でJA出荷
- 経費を抑えることで所得を伸ばし、令和2年は所得600万円以上を達成



今後の目標（就農9年後）

規模拡大、販路拡大

- 栽培体系を安定させた上で規模拡大していく
- 直売やネット販売などを活用し、販路の拡大を目指す